

ALPS処理水希釈放出設備及び関連施設の うち放水設備の仕様変更と工事進捗状況について

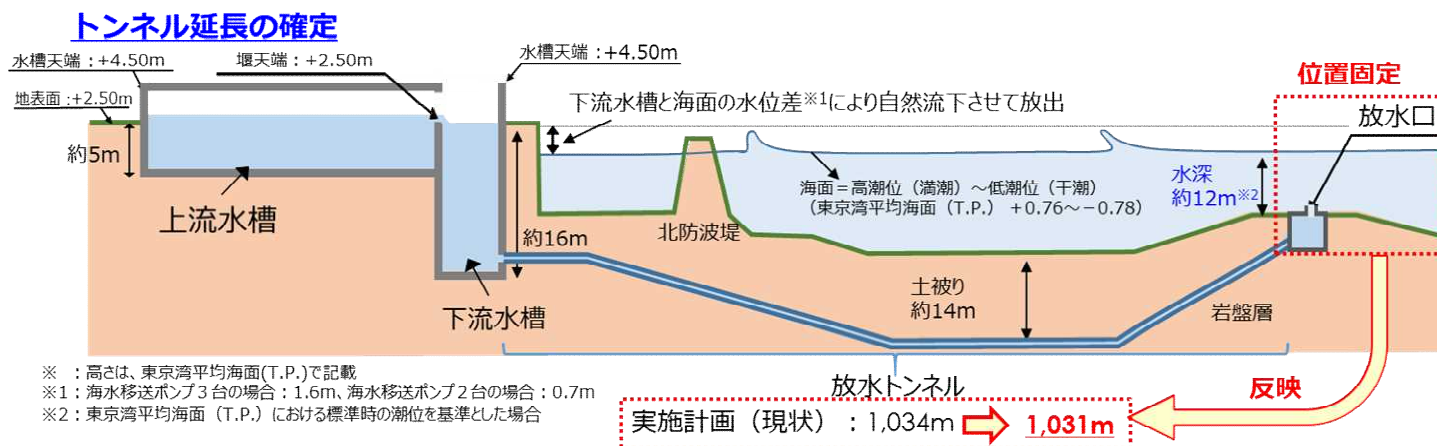
2023.5.12

TEPCO

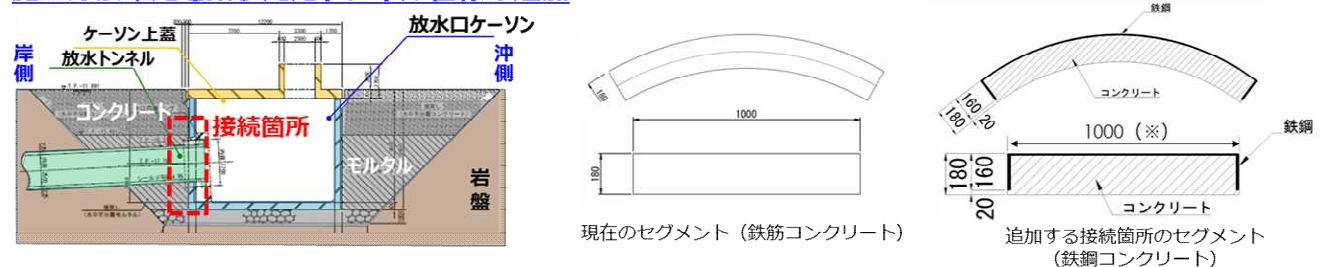
東京電力ホールディングス株式会社

1. 放水トンネルの要目表の記載の変更

- 放水トンネルについて、実施計画Ⅱの主要仕様により以下の内容を反映した。
 - ✓ 放水口ケーソン設置および周囲の埋戻し工事が進捗し、放水口ケーソンの位置が固定されることで、放水トンネル延長が概ね確定したことから、実施計画のトンネル延長の記載に反映した。
 - トンネル距離が短くなり、水理計算としては裕度が増える側であるため機能・性能に影響はない。
 - ✓ 放水口ケーソンと放水トンネルの最終的な接続箇所の施工方法確定に伴い、トンネル軸方向距離の最終調整が必要となったことから、鉄鋼コンクリートを仕様を追加した。
 - 現在の鉄筋コンクリート製のセグメントと同等以上の強度を有する仕様とするため、機能・性能に影響はない。



施工方法確定を踏まえたトンネル仕様の追加



2. 放水トンネルの要目表の記載の変更

変更前	変更後
<p>2.50 ALPS処理水希釈放出設備及び関連施設 (中略)</p> <p>2.50.2.2 放水設備の主要仕様 (中略)</p> <p>(2) 放水トンネル 基数 1式 主要寸法 <u>延長1,034m</u> 内径2,590mm 構造 鉄筋コンクリート造 (コンクリート：42N/mm², 鉄筋：SD345)</p> <p>(以下、省略)</p>	<p>2.50 ALPS処理水希釈放出設備及び関連施設 (中略)</p> <p>2.50.2.2 放水設備の主要仕様 (中略)</p> <p>(2) 放水トンネル 基数 1式 主要寸法 <u>延長1,031m</u> 内径2,590mm 構造 鉄筋コンクリート造 (コンクリート：42N/mm², 鉄筋：SD345) <u>鉄鋼コンクリート造</u> <u>(コンクリート：42N/mm², 鉄鋼：SM490A)</u></p> <p>(以下、省略)</p>

3. 製造者が定める寸法許容差

No.	名称	寸法※1	寸法許容差	
5	放水立坑（上流水槽）	たて：34,500mm	0～+69mm※2	
		よこ：16,900mm	0～+80mm※2	
		高さ：6,000mm	0～+20mm※2	
6	放水立坑（下流水槽）	たて：4,600mm	0～+20mm※3	
		よこ：10,000mm		
		高さ：17,200mm	0～+規定しない※3	
7	放水トンネル	セグメント（鉄筋 コンクリート造）	幅：1,000mm	-1mm～1mm※3
			厚さ：180mm	0mm～+規定しない※3
		セグメント（鉄鋼 コンクリート造）	幅：1,000mm※4	-1.5mm～1.5mm※3
			高さ：180mm※5	-30mm～+30mm※3
			高さ（鋼製セグメント）： 160mm	-1.5mm～1.5mm※3
			延長：1,031m	-5m～+5m※3
8	放水口	たて：8,000mm	0～+20mm※3	
		よこ：11,000mm		
		高さ：8,300mm		

※1：No.5、No.6、No.8は内寸を示す。

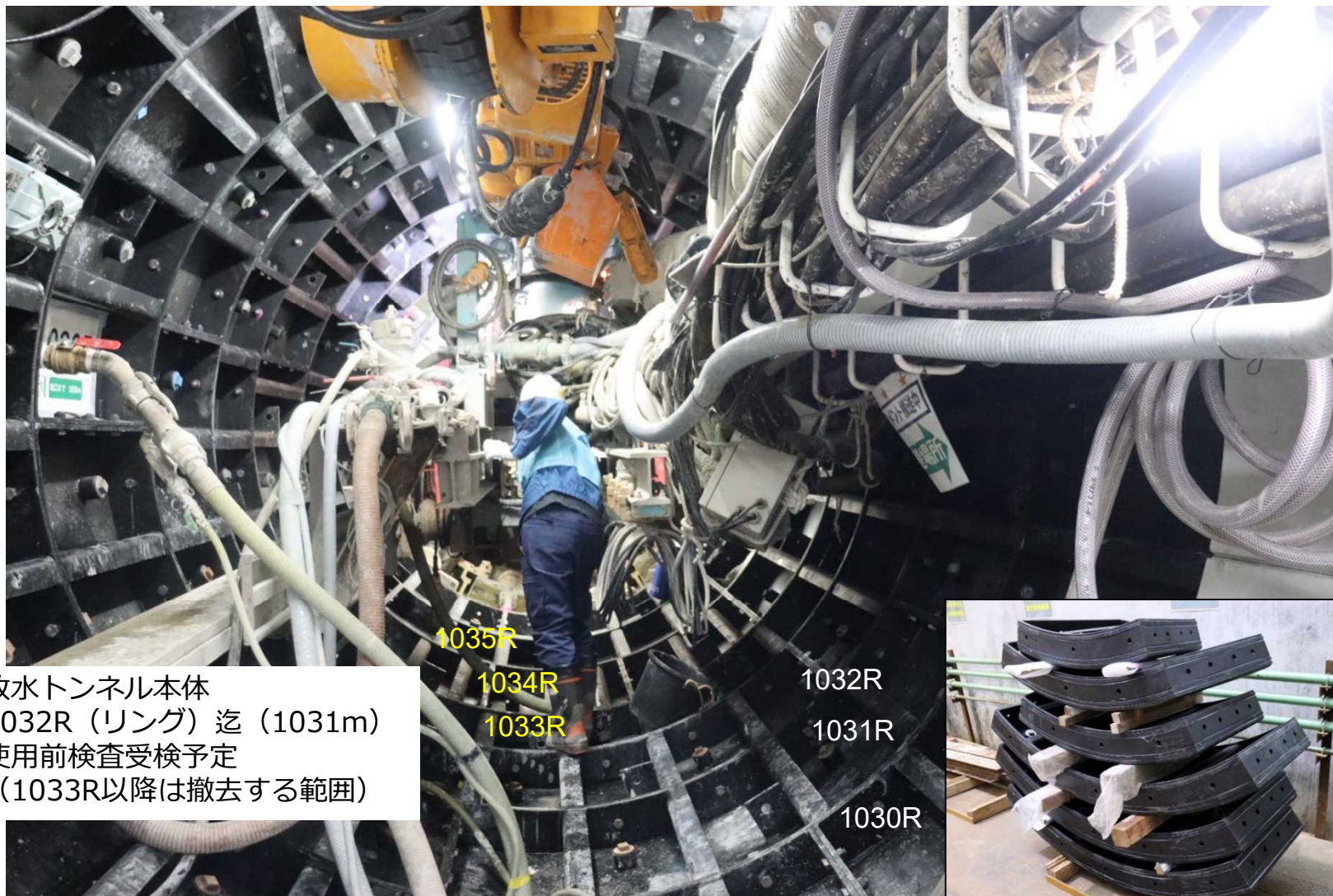
※2：プレキャスト式雨水地下貯留施設（壁式多連型）技術マニュアルによる。

※3：社内基準

※4：到達部の位置合わせのため、900,800,700,600mmのセグメントを用意する。

※5：セグメント（鉄鋼コンクリート造）の高さについては、放水トンネル内径を測定することで確認する。

4. 施工状況 放水トンネル施工状況（掘進完了後 2023/4/26）



放水トンネル本体
1032R（リング）迄（1031m）
使用前検査受検予定
（1033R以降は撤去する範囲）

1035R

1034R

1033R

1032R

1031R

1030R



5. 施工状況 放水トンネル施工状況 (2023/5/9)

